

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第4回相模原市緑区区民会議区ビジョン検討小委員会		
事務局 (担当課)		緑区役所地域政策課 電話042-775-8801 (直通)		
開催日時		平成24年2月21日(火) 14時～16時15分		
開催場所		F105橋本 3階 第6会議室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	6人(緑区長、緑区地域政策課長、他4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 緑区区ビジョン答申案について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は委員長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言）

1 開会

緑区区民会議区ビジョン検討小委員会委員長の司会進行により、議事が進められた。

委員長から会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開について承認を得た後、傍聴希望者の報告を行った。

2 議題

(1) 区ビジョン答申案について

- 「区ビジョンの位置づけ」に、新・相模原市総合計画と整合を図るとあるが、総合計画は22地区のまちづくり提言書を反映させてはいるが、全て網羅されているとは限らない。また、総合計画を地域の視点で捉えなおし、まちづくりがより身近なものとなることが「区ビジョンの役割」であるが、資料1の本庁各局の意見を見ると、総合計画との整合ということで、緑区の特徴が削られてしまっているところがあると思う。区ビジョンには、総合計画の補完的な役割を期待していたが、総合計画との整合ということで、緑区の特徴が削られることは、仕方がないのか。
- 区民会議の表現と本庁各局の表現とを比べ、内容が近ければ区民会議の表現で書かせてもらうよう調整したい。また、大きなプロジェクトは、緑区内のプロジェクトとはいえ、全市的なプロジェクトもあるので、そういうものは、本庁各局の意見を踏まえて修正させていただきたい。
- 2点確認させていただきたい。1点目は、市の総合計画との整合を図ることに対して、区民会議でどの程度対応できるのだろうか。2点目は、先般の区ビジョンフォーラムでも様々なご意見をいただいたが、区ビジョンへの反映について今日はどこまで議論ができるのか。
- 整合を図るということでは、例えば、救急医療体制の充実については、西メディカルセンターについてのご意見もあったが、財政計画との関わりがあるため記述が難しく、総合計画と整合を図った表現とさせていただいている。しかしながら、原則的には、今後施策を進めていく上で、まちづくり会議等で煮詰めていく必要があると考えている。ただし、大規模な投資等については区ビジョンへの記述はなかなか難しい。また、区ビジョンに対する市民意見等については、今日の小委員会で、修正の方向を見定め、3月14日の区民会議において修正案を提案する予定である。最終的な修正は、小委員会あるいは正副会長に任せる等取り仕切りをし、答申となる予定である。

- 次の区民会議の時にも、財政面の制約があるものについては記述が難しい旨説明をしたほうが良い。
- 南区、中央区も本庁各局との調整を同じプロセスでやっているのか。
- 同じプロセスでやっている。ただ、緑区は細かい内容を多く書いているので、意見が多く出されたという経過はあると思う。
- No.9「市道の整備」で、修正理由として幹線道路に限定しないとあるが、区民会議での現行素案では、幹線道路も整備しようという意味あいがあったと思うが、修正案では、全体的に整備する、補修をするということなのか。
- 素案 36 ページ「道路交通網の整備」の主な取り組み①「さがみ縦貫道路・津久井広域道路等国県道の整備」の次に②「市道の整備」がある。主要幹線道路については①で記述しており、市道の整備については、安全で快適な道路環境に特化したものであり、幹線道路の整備は国県道だけではないので、交差点の改良や立体交差化、狭あい道路の整備を進めるとともに幹線道路の整備を推進するというような表現を再度検討したい。
- 資料1に、県の視点とあるが具体的にはどういうことなのか。
- 神奈川県は、リニア中央新幹線の新駅を北のゲート、東海道新幹線の新駅を南のゲートとしており、それらをつなぐネットワークの整備を推進している。しかし、橋本駅周辺地区と相模原駅周辺地区を、両地区の機能分担のもと首都圏南西部における広域交流拠点として、まちづくりを進めることが市の考え方であり、そのように整理したらどうかということだった。首都圏南西部における広域交流拠点としてのまちづくりという表現にさせていただいている。
- 乗合タクシーについては、すでに導入しているので拡充という表現をしたが、あくまでも地域にとっては導入なので、そういう表現にさせていただいた。
- NO.11 に交通サブターミナルという言葉があるが、サブターミナルがあれば当然メインターミナルがあると思うが、それはどこなのか。
- 橋本、相模原などいくつかあるが、津久井地域ではターミナルは三ヶ木となっている。新しい総合都市交通計画では、ターミナルに加え、サブターミナルを新たに配置する予定で検討されている。
- 「車の駅」は通勤や観光など、津久井広域道路の整備と併せて、あらゆる車が利用できる大型駐車場を作るべきという考え方で提案したものである。サブターミナルでは規模が小さく、パークアンドバスライドとは書いてあるものの、通勤で使う程度の規模になってしまうのではないか。
- 総合都市交通計画の中にはパークアンドバスライドのことも書いてあるので、サブターミナルに加えて、拠点としての位置づけを書かせていただきたい。
- 実施計画でなく、区ビジョンであるので、活用法や用途について盛り込むべきではないか。大規模な駐車場がなければ集客も難しく、経済発展にも繋がらない。

- （仮称）城山インターチェンジ周辺新拠点まちづくり事業の進捗も踏まえ、再度検討したい。
- No. 14「JR 横浜線・中央本線の相互乗り入れの促進」の修正案に、中央本線の上下電車の増発についても記述してほしい。
- 要望は出していると思うので、記述について検討したい。
- No. 16「水とみどりのふれあい交流拠点の形成」に「津久井湖を中心に・・・」とあるが相模湖周辺はどうするのか等の意見が出ている。地域の特定はしない方が良いのではないかと。
- 今までも議論になったが、「水とみどりのふれあい交流拠点の形成」は、市の計画に位置づけられているので、整合を図るものである。素案 38 ページの主な取り組み⑤「観光交流を創出する癒しの拠点の形成」には地域を特定していないので、こちらに相模湖周辺地区など地域名を記述するなど、もう少し詳しく書き込もうと考えている。
- No. 13「リニア中央新幹線の建設促進」について、区ビジョンフォーラムでも駅誘致について様々な意見が出されたが、リニア中央新幹線の駅誘致について、今までに議論の場を設けたことがあるのだろうか。また今後、アンケート調査や、別に議論する場を設けるのか。
- 資料 2 の 2 ページにも書いてあるが、リニア中央新幹線の駅誘致に関しては、まだ先のことということもあり議論が成熟していなかったが、ここで、環境影響評価方法書の縦覧などが行われた。JR 東海としても事業者としての責任があるので、今後、環境影響評価や電磁波の問題への対応などの考え方も出されると思う。市としてリニア中央新幹線の駅の誘致を進めるという考え方に変わりはないので、首都圏南西部の広域交流拠点としてのまちづくりについての考え方など情報開示をしながら、今提起されている様々な問題をさらに議論していかなければならないと思う。リニア中央新幹線の駅誘致に関しては、市としての大きな問題でもあるので関係機関と連携し、様々な立場からの議論が必要だと考えている。
- 直接区ビジョン作成に関わっていない区民にとっては、委員選出や議論の経過が見える、納得できるものがあつたほうが良いと思う。
- リニア中央新幹線の駅誘致の問題は大きな問題で、緑区区民会議だけでは全てを解決できない。区民会議としては、大きな動きを捉えて、その中で現在考えられるものを区ビジョンに反映していくような考え方で良いのではないかと。今後、行政がリニア中央新幹線の駅誘致を推進していく中で、市民に説明し理解を求めていくことになるのではないかと。
- リニア中央新幹線の市内駅の実現に向けては、区ビジョンフォーラムで出された課題もあるが、「リニアの市内駅の実現に向けた取り組みを進める」と表現していることを区民会議に再度諮るべきである。

- 区ビジョンフォーラムで出された意見を区民会議で共有し、区ビジョン策定後もしっかりと進行管理していく必要があると思う。
- リニア中央新幹線の駅誘致についてはこれまでも何回か、市主催の説明会を開催している。しかし、まだ先のことということもあり、あまり議論が成熟していなかったが、これからは具体的な内容で議論が進んでいくと思われる。
- No. 15「川尻大島界地区整備促進事業」で、「産業の拠点づくり」が「産業用地の創出」に修正された理由を教えてください。
- 素案の 38 ページであるが、川尻大島界地区というのは6㌔くらいの土地で、スーパーマーケットが入る予定で区画整理がされている。金原地区とは違い、産業拠点といえるほどの機能性はないのではないかと思います。
- No. 23 と 24 の「地域医療体制の充実」で、「産婦人科・小児科を有する医療機関の設置促進」は削除しないでほしい。安心して子どもを産み育てるという方向に逆行している。
- 津久井赤十字病院は、現在産科の医師を置いておらず、城山まで来ないと産科の医師がいない状況である。再度検討する。
- No. 22 に関連して、消防団や自主防災隊の訓練所が整備されると地域の安全・安心にもつながるので、訓練所等の整備について記述したほうが良い。
- 記述について調整する。
- 分署の移転等に伴い、救急車の到着が遅れる可能性がある地域のフォローを考えてほしい。
- 素案の 52 ページの「消防署所の整備」の中で、「分署等を整備するとともに救急隊を配置します」と修正しており、例えば、青根分署等の整備検討に併せ、救急隊の配置を進めていくものである。
- No. 28 の「現状と課題」に、核家族化だけでなくひとり親世帯の増加も加えたほうが良いと思う。
- 検討するが、「核家族化や地域コミュニティの希薄化など」の「など」に含まれるものと考えている。
- No. 38「小・中学校・高等学校の連携」は、高等学校が削除され、「小・中学校の連携」となっているが、高校生を含めても良いのではないかと。
- 相模原総合高校の事例等を確認し、含める方向で検討する。
- No. 49「豊かな森林の保全・育成」で、里山林が削除されているが、里山林に重点を置いていたので、里山林については記述してほしい。
- 里山林についての記述を検討する。

(資料2「緑区区ビジョン素案意見聴取結果一覧」について)

- 資料2の「区の現況と特色」に係る意見を踏まえ、安全・安心力の用語説明を考え

てきた。安全・安心を考えた時、災害や犯罪は分かりやすいが、それ以外に病気、事故なども含まれる。生活を脅かす危険に対して、現況をどう記述するかが大事だと思う。また、相模原市周辺地域の活断層を調べたので、地震リスクの現況を記述し、区民が日頃から心がけることにつながれば良いと思う。

○No. 8の協働の明確化についてであるが、区ビジョンの中で協働の割合までは書けないと思う。区ビジョンに基づいて具体的な事業を組み立てる時の参考とするものではないか。

●取り組み主体を行政と書いている取り組みでも、市民にご意見をお伺いしたりする場面もあるので、行政と書いていても協働の割合も含まれている。そういう意味で、取り組み主体の捉え方が難しいので、南区では取り組み主体を削除した経緯がある。緑区ではどう扱うべきかご意見を伺いたい。

○「区ビジョンの視点」に協働のまちづくりを掲げているので、考え方として全て協働だというのは、その通りかもしれないが、協働の視点を掲げているからこそ、協働を掘り下げるべきではないか。

●全て協働とっておきながら、取り組み主体が行政となっているものもあるので、分かりにくいのではないかと思う。

○区ビジョンフォーラムで、協働の割合の明確化という意見が出されたが、現実には、その割合は事業ごとに異なるものなので、協働を掘り下げることも難しいように思う。

○区ビジョンを読む人が参加意識を持つために、取り組み主体を削除するよりも、個別事業を組み立てる際に明確にしていくなどの説明を用語解説に入れる方法もあると思う。

○区民会議で議論してきた結果なので、取り組み主体を削除するよりも、取り組み主体の掲載方法を工夫したほうが良いと思う。

◎緑区の区ビジョンで使う協働にはこういう意味があるなど、説明する方法もあると思う。削除するよりも使う方法で検討したほうが良いのではないだろうか。

●例えば、素案 61 ページ④の「地域での支えあいによる子育ての推進」の取り組み主体は区民となっているが、行政も予算措置や場の提供などを行うこともある。そのように考えると取り組み主体はほとんど協働になってしまう。

◎協働は概念であるので、例えば「区ビジョンの役割」の図に書き込むことはできる。

●協働を概念として書き込むことはできても、区民と書いている取り組みに、行政は関わらないのかということになるので、南区では、関わりの態様はあるとしてもいずれも協働であるということで、取り組み主体を削除した経過がある。区ビジョンは、総合計画を進めていく上で、協働の道標となるものであり、協働が前提となっているものである。

○あくまで取り組み主体であり、区民主体であっても行政も関わるという考え方で良いと思うので、協働をもっと掘り下げたほうが良いと思う。

◎緑区区ビジョンにおける協働の定義を説明する方法もあると思う。

●協働の態様は様々あるが、今後事業を進めていく時に、常に協働の視点で、役割分担を考えて取り組む必要があると思うので、そう考えると、取り組み主体を書いていることの説明が難しくなってきたと感じている。

○策定後、取り組み主体があることで、誤解を招く可能性があるということかと思う。

◎協働の扱いは全体会議に諮り、決めていきたい。

○No. 14 で藤野・津久井・相模湖等の人口減少が挙げられているが、これは区ビジョンが主体になって進めていく根本的な問題だと思う。

○区民会議で傍聴者が0人だったこともあるが、情報発信の方法など、現状を区民に知ってもらい、もっと関心を持ってもらえるような方法を考えたほうが良いと思う。

◎区ビジョンに対していただいた意見の件数などは重要だと思うので、掲載してはどうだろうか。

●答申の際、意見の件数などを集計したものを提示することはできると思う。

○No. 89 の関係で、庁内分権は進めてほしい。

●庁内分権については「区役所のあり方検討会」で進めているが、特に福祉のレベルアップと地域の特性の捉え方についてどう整理していくかが論点の一つで、もう一つは、市から区へどの程度まで権限を委譲できるかが議論されている。

○2年間で18回のまちづくり会議が開かれているが、今後のまちづくり会議のあり方、位置づけを見直し、魅力あるまちづくり会議にしてほしい。

○No. 95 の用語解説については、短い説明については注釈、長くなる説明についてはきちんと用語解説で説明したほうが良い。後ろの付属資料など見ないという意見もあるが、区民に分かりやすい言葉で説明すれば良いと思う。

◎今日の結果を踏まえて資料を修正し、3月14日の区民会議の全体会議に諮りたい。

3 その他

今後の区民会議全体会議の開催日程について

- ・3月14日（水）午後7時から Flos橋本3階 第6会議室

区ビジョン答申について

- ・3月28日（水）午前11時30分から 市役所本館2階 第一特別会議室

4 閉会

相模原市緑区区民会議「区ビジョン検討小委員会」委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	藤掛 洋子	東京家政学院大学准教授	委員長	出席
2	宮下 量久	(株) PHP総合研究所研究員	副委員長	出席
3	小野沢 良雄	相模原市自治会連合会副会長		出席
4	鯉登 茂	橋本地区まちづくり会議代表		出席
5	佐藤 治男	藤野地区まちづくり会議代表		出席
6	福本 壘	公募委員		出席